

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05293	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	環境中親電子物質エクスポソーム とそれを制御する活性イオウ分子	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	熊谷 嘉人 (筑波大学・医学医療系・教授)

【令和2(2022)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、親電子物質の個別・複合曝露による影響の差異、並びにメチル水銀(MeHg)をモデルとしてイオウ付加体の体内におけるフェートを検討したものである。</p> <p>概ね順調に進捗しており、特に、イオウ付加体の代謝について、これまで知られていなかった新しい知見を見いだしている点は評価できる。</p> <p>今後は、毒性学的な意義をより確かなものにするため、実際に環境中で起こされている曝露量を考慮した用量で試験を行い、この(MeHg)₂Sの呼気からの排出が水銀の体外排出総量の中でどれほどの貢献をしているか検討を進めることが望まれる。</p>		